

2025年ネイチャーゲーム研修会報告

- ◇日 時：2025年11月22日(土) 10時～17時
- ◇場 所：希望ヶ丘文化公園 青年の城と周辺フィールド
- ◇目 的：森林インストラクター会活動の充実とより効果的な指導の一助とするため

<実施ゲーム>

初めてのネイチャーゲーム研修を希望ヶ丘文化公園の研修室と野外で8つのゲームを実施しました。シェアリングネイチャー協会の講師にお越しいただき、大変勉強になり、またとても楽しい研修会を開催しました。お昼は皆で近くのカフェでランチを食べながら、意見交換をし、大変充実した1日を過ごしました。

◆研修室◆

1. ノーズ ヒントからその生きものを推測し、特徴や生態について学ぶ
導入方法やヒントの出し方の様々な方法を学ぶ
2. 動物ヒントリレー ヒントを書いたカードをもとに、グループでその生きものを推理する
対象者の年齢や人数に合わせて種類とヒントの数を変えることができる
最後にカードの中身を確認して皆で情報シェアをする
3. 天敵と獲物 コウモリとガの食う食われる関係を実際に体験しながら学ぶ
いくつか違った方法を体験しました。

◆フィールド◆

4. カモフラージュ (アレンジ版)
目立たないように置かれた人工物を注意深く探す。
今回は「自然物3種類50個」を探しました
※人工物であれば回収が必要なので、置いた場所をメモしておく
※このゲームの後にフィールドビンゴをすると、子ども達の熱心度が更にあがる
5. 森の色合わせ 森の中にある様々な色を探す
ペアや3名ほどのグループで20分間（時間配分はその時に合わせて変更できます）
色カードにあるものと同じ色の植物・動物・昆虫、自然物を見つける
最後の成果報告会では、集めた葉っぱや花、カラフルなガの繭を報告

6. 音クイズ 5つの箱には「砂」「ドングリ」「小さな巻き貝」「ツバキの実」「塩」がはいっている、箱の中に何が入っているのか音で推測する
(次のアクティビティとの相乗効果が得られ、子供たちに音への興味を引くことから、集中してくれます)
7. サウンドマップ 周囲から聞こえてくる音を「地図」に記入することで表現する。
必ずマップに書く必要は無い(伝えることができれば OK)
8. サイレントウォーク 静かに自然を見つめることによって、自然とのつながりを実感する
音のない世界、通じることの難しさを感じることができる

<振り返り>

【5つのポイント】

- (1)「教える」よりも、わかちあおう 互いに自由に言える瞬間をつくる
- (2)受け身になろう 参加者の様子に気づける 例：楽しい♪、退屈、わからない・・・
- (3)チャンス逃さないで 子どもが何かを発見したときはチャンス⇒プログラムを変えることもあり
- (4)体験第一、説明は後で ゲームの説明は短く。説明が長くなるときは2段階にわけるとも方法。
- (5)楽しさは学ぶ力

何よりも大切なのは、子どもたち(参加者)の反応に敏感になることです。子どもたちが発信していることを敏感に受信すること。そして傾聴し受容することから、信頼関係が育まれます。ありのままを受け止めてくれる大人がいることで、自己肯定感を育む結果となります。これらのことは、対子どもだけでなく保護者や同僚にも通ずることです。

まずはネイチャーゲームで心を笑顔に！楽しさは学ぶ力！！

【その他】

- その日の最初の導入について 参加者が受付に来たときから、声かけをする。
- ピンチ 子どもが走って怪我！走ることが何故危ないのかを皆で考える機会をつくる
- アクティビティの名称について
スタッフと名称の共通認識を持つことで流れの確認がスムーズになり、プログラムの目的・目標の共有が可能になる
- まとめと振り返りは？
・分かち合いは必要。感じていることをシェアすることは、喜びに繋がる。
・「何が面白かった？」、「今度来たときには〇〇の木を見に来てね！」と伝えるなど